

## ■ 教育を受ける際の配慮や工夫 障がい者が「困ったこと」「あったらいいな」と思う配慮や工夫

### ① バリアフリーに関すること

エレベーターがないと移動が困難なため設置を進めて欲しい。	肢体不自由
段差を解消するなどバリアフリー化を図って欲しい。	視覚障がい、肢体不自由
オストメイトのトイレを設置して欲しい。	視覚障がい
会場等のバリアフリーに関する情報を事前に提供して欲しい。	音声・言語・そしゃく機能、肢体不自由
コンピューターの使い方には慣れているが、学校で使う場合に、高さが合わない場合が多い。	肢体不自由・精神障がい

### ② 授業に関すること

教科書によって拡大文字のないときがある。	視覚障がい
副読本にも拡大文字が必要。	視覚障がい
学校で使うテキストを点字にするという保障をして欲しい。	視覚障がい
板書するとき声を出しながら書いて欲しい。	視覚障がい
研修などでパワーポイントを使用されると視覚障がい者は非常に困る。	視覚障がい
筆談では単純過ぎて理解出来ないので手話通訳が必要。	盲ろう、聴覚障がい
手話通訳の利用範囲を広げて欲しい。派遣手話通訳者が必要。	聴覚障がい
手話通訳をお願いしても断られることのないようにして欲しい。	聴覚障がい
小学校や中学校の義務教育課程で、言語としての手話の教育課程を取り入れて欲しい。	聴覚障がい
情報がうまく伝わらない時がよくあるので、触手話する時は音声会話をゆっくりと話して欲しい。	盲ろう
ノートテイク、板書の徹底等、普通校で学ぶ時のサポート体制が必要である。	聴覚障がい
聴覚に課題がある子は前に座らせ、勉強が分ったかどうか確認する等の配慮が必要。	聴覚障がい
体育等の教科によって障がい特性に応じた配慮が欲しい。(審判の音がきこえないと試合参加が難しい等)	聴覚障がい

### ③ 試験に関すること (なし)

### ④ 相談や学生生活の支援に関すること

参観日の際、先生に筆談でも状況を教えて欲しい。	盲ろう、聴覚障がい
こども相談センターや教育委員会の就学相談のアドバイスなど、情報の発信をして欲しい。	視覚障がい、肢体不自由

⑤ 就職支援に関すること（なし）

⑥ 障がい理解に関すること

障がい者に対して思いやりを持つ教育をして欲しい。	視覚障がい
学生に対しての「個別の人権教育」が必要。	精神障がい
手話は「日本語対应手話」より、ろうあ者に会った「日本手話」を使って欲しい。	聴覚障がい
小学校や中学校の義務教育課程で、障がい者の情報保障の教育をして欲しい。例えば、情報保障には手話や要約筆記などがあること。	聴覚障がい
笑顔とその子にあった言葉を選んで使って欲しい。その子のいい所や本人なりの進歩をほめて欲しい。	知的障がい
障がいのある子どもの兄弟姉妹も親と同じように負担を担っているの、宿題や持参するものを用意できない事もある事を知って欲しい。	知的障がい
子どもの時から障がい者に接する機会を与えることが大切。小4年の授業で視覚障がい者自身が学校で授業をしている事例は取り入れるべき。	視覚障がい

⑦ その他

図書施設での音声図書の案内をして欲しい。	視覚障がい
図書館などでも、図書が高いところにある場合が多いので、気軽に手伝ってもらえるとありがたい。	肢体不自由
ある程度一つの窓口で色々な学校の情報が得られるようにして欲しい。	聴覚障がい、肢体不自由
特別支援学校の高卒認定卒業後、希望に応じて継続して学習等のできる環境が必要。	精神障がい
技術ばかりで、手話の文化、ろう者の生活、手話の文法を学べる教育がない。	聴覚障がい、音声・言語・そしゃく機能
政治、ニュースのわかる講座をつくって欲しい。	聴覚障がい、音声・言語・そしゃく機能